

学校関係者評価委員会

平成 30 年度 第 2 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：平成 31 年 2 月 5 日(木) 18:00~20:00

場 所：修成建設専門学校 会議室

2. 出席者（順不同、敬称略）

委員

丸山 徹、相賀 勝、藤田 晴樹、山崎 充、武井 彰、大和 正（計 6 名）

学校（オブザーバー）

山下 裕貴、堤下 隆司、増田 和浩、見邨 佳朗、野瀬 孝男、中安 哲男 亀井 哲男

（計 7 名）

（参加者合計 13 名）

3. 配布資料

資料 1-1：平成 30 年度第 2 回委員会 議事次第

資料 1-2：委員会出欠予定一覧

資料 1-3：平成 30 年度第 1 回委員会 議事録

資料 1-4：平成 30 年度意見交換会議事録

資料 1-5：平成 29 年度学校関係者評価委員会評価報告書(案)

4. 議事次第

(1) 開会挨拶

堤下校長の挨拶、藤田委員長の開会挨拶に続いて、山下理事長より挨拶がなされた。

(2) 議事内容説明

堤下校長から本日の議事内容について概要説明が行われた。

(3) 各学科平成 30 年度評価報告

①建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）・・・増田委員

建築学科では、建築を設計から施工までトータルに学ぶという内容で展開しています。

2 年生は積算士補の資格試験にチャレンジし、合格率は約 70%でした。

また、宅地建物取引士、施工管理技士、福祉住環境コーディネータなどの資格試験対策や、設計塾、BIM 講習などを実施しました。さらに卒業設計では基本設計コース、意匠設計コース、構造コース、木造コース、BIM デザインコース、施工管理コース、景観・まちづくりコースの 7 つのコースを設けて実施した。

②建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、専科 2 級建築士科・・・見邨委員

建築CGデザイン学科では、二次元の CAD から BIM へ、さらに動画で伝えるための取り組みを実施した。便利ではあるが考えることを怠らないようアナログ的なものの考え方

も養成している。

空間デザイン学科では、総論で他分野の方々の話を聞き、建築と一線を介した空間デザインの表現に影響を及ぼしたと感じている。その成果が卒業設計に反映され空間的アイデアを取り入れたものも制作された。

専科2級建築士科の二級建築士の合格率は前年度と大きく変化はないが、学生数の増加に伴い、合格者数を増やすことができた。また本校も含めて3校の意見交換会を実施し今年度の試験対策を行い、試験終了後も次年度に向けて意見交換会を実施した。

③土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬委員

今年度は新たな非常勤講師3名を迎えての授業となった。また、授業の中にSPI対策を取り入れたり、KENTENや建設技術展の見学会等を実施した。

進路については、1年生の就職希望者のほぼ全員が、インターンシップに参加。土木工学科は大学編入1名、建設エンジニア学科は公務員1名を含み、全員が就職内定している。また、1年生は後期ワークショップの授業において14社の企業の方を招いて実務者の講義を受講し、進路決定の参考にしている。

資格に関しては2級土木施工管理技術検定(学科)試験に36名合格し内4名は実地にも合格した。その他、小型車両系建設機械・職長安全衛生責任者・足場特別教育等を多数の学生が修了した。

次年度からは、ICTを駆使して建設現場の生産性向上を図れる内容も盛り込みたいと考えている。

④ガーデンデザイン学科・・・中安委員

ガーデンデザイン学科では、職業としての造園が理解できるように仕事の流れに沿った科目間の連携、企業との連携をし、通常の授業の枠に納まりきらない部分について、担当教員とスケジュール管理をすることにより、災害が多い中、対応することができた。2年間の学習の成果として造園施工管理技士学科試験、造園技能士の資格取得と卒業設計の質の向上をめざし、造園施工管理技士は90.5%、造園技能士は約70%の合格率となった。

今後の検討課題としては、学生全員に平等な指導ができたか、企業との連携についてはスケジュール調整や学生への負担、アルバイト等私生活への影響がなかったか等があると感じている。

⑤住環境リノベーション学科・・・増田委員

住環境リノベーション学科は、工事管理者として工程、品質、安全、原価が実践に近い形で学べるように指導しており、富士教育訓練センターの実践さながらの実習は学生から非常に高い満足度を得ております。

資格に関しては、キャタピラー教習所で卒業までに9つの特別教育や技能講習を修了することで学生のスキルアップや自信となっています。

今後は、2級建築施工管理技術検定(学科)試験の合格率100%を目指すとともに、3級大工技能検定を受験できるようにしていきたいと考えています。

(4) 議 案

1) 平成29年度学校関係者評価委員会評価報告書について

平成 29 年度学校関係者評価委員会評価報告書について内容が承認され、委員会より修成建設専門学校に報告書が提出された。

2) その他

①質疑応答

前年の評価に対して今年度の評価はどうか。

前年に比べて採点評価は上昇している。また平成 30 年度意見交換会で、教育内容など学校が進歩しているという実感を得た。

設計希望者は多いですか。

構造設備、積算、確認申請業務に進む者は少ない。

外国人雇用の変化に対する学校の対応はどうか。

本校は、技能者ではなく技術者を養成しており、今後も留学生を入学させるが日本語技能のレベル等を下げる事は考えない。

就職してからの様子はどうか。

夏休みに教職員が手分けして会社訪問を実施しているが、ミスマッチや早期退職が引き起こされていないかなども含め訪問内容を精査したい。

今年度実施したインターンシップの参加者は夏で 60%、春 80%程度であった。インターンシップ等を通して、ミスマッチが発生しないようにしていきたい。

②堤下校長より

「卒業展 2019」について

グランプリ 1 点、準グランプリ 3 点、佳作 6 点、学科賞 10 点、奨励賞 41 点の計 61 点を 2 月 16 日・17 日に北堀江の修成堀江ラボに展示、表彰する。

「建設業界合同企業説明会 2019」について

新 2 年生と専科進学者対象に地方公共団体を含む約 100 社の協力を得て 3 月 5 日にグランフロント大阪北館のコングレコンベンションセンターで合同企業説明会を実施する。

以上

(記録・文責：野瀬孝男、見邨佳朗)